

別添資料

アンケート配布先一覧.....	8494
アンケート用紙① 本スキーム利用団体用.....	9585
アンケート用紙② 本スキーム未利用団体用	93103
国内インタビュー 面談者一覧.....	97107
カンボジア現地調査日程表.....	98108
カンボジア現地調査 面談者一覧.....	99109
現地調査用質問票.....	10111
2002 年度 日本NGO支援無償資協力 地域・国名別 実績.....	110
2003 年度 日本NGO支援無償資協力 地域・国別 実績	113
「日本NGO支援無償資金協力改善のための 1 1 の提案」フォローアップ	116
参考文献リスト.....	122

アンケート配布先一覧

	団体名	
本 ス キ ー ム の 利 用 団 体	(準学) アジア学院	(特活) 燈台
	(特活) アジアの教育厚生支援の会 (JVA)	(特活) 難民を助ける会
	アフガニスタンへ病院用ベッドを贈る会	(特活) 日本・イラク医学協会
	(特活) アムダ (AMDA)	(特活) 日本医療救援機構
	育英海外ボランティア	(財) 日本開発救援財団 (FIDR)
	(特活) アイウエオサークル	(特活) 日本救援行動センター
	(特活) アクション	(財) 日本国際親善厚生財団
	(特活) アジア戦災孤児救済センター	(特活) 日本国際ボランティアセンター
	(特活) エービーエスディ	(社) 日本国際民間協力会
	(特活) エル・エンジェル国際ボランティア協会	(特活) 日本地雷処理を支援する会 (JMAS)
	(特活) オアシス	日本・バングラデシュ文化交流協会
	(財) オイスカ	(財) 日本フォスター・プラン協会
	(特活) カラ＝西アフリカ農村自立協会	(特活) 日本紛争予防センター
	(特活) カリンズ森林プロジェクト	(特活) 日本ブルキナファソ友好協会
	関西日中交流懇談会	日本ラテンアメリカ教育ネットワーク
	グローバル・ヴィレッジ	(特活) ピースウィンズジャパン
	(財) 国際労働財団	(特活) フー太郎の森基金
	(特活) 国境なき医師団日本	(特活) ブリッジエーシアジャパン
	(特活) 国際アマチュア無線ボランティアズ	(特活) プロジェクト HOPE ジャパン
	(特活) 国際ボランティアセンター山形	宮城国際支援の会
	(特活) シェア＝国際保健協力市民の会	(特活) ラオスのこども
	(特活) ジェン (J E N)	(特活) レインボー国際協会
	(特活) 歯科医学教育国際支援機構	(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン
	(社) シャンティ国際ボランティア会	(特活) BHN テレコム支援協議会
	(特活) 人道目的の地雷除去支援の会 (JAHDS)	(特活) H E L I O S
	(特活) スクールエイドジャパン (SAJ)	(特活) ICA 文化事業協会
	(社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	(特活) JHP・学校をつくる会
	(特活) 地球ボランティア協会	(特活) SAVE AFRICA
	千葉県ライオンズクラブカンボジア支援プロジェクト	

アンケート用紙① 本スキーム利用団体用

日本 NGO 支援無償資金協力に関する評価調査のためのアンケートへご協力をお願い

関係各位

此度、(財)国際開発高等教育機構 (FASID) は外務省より「日本 NGO 支援無償資金協力」のスキーム評価業務の委嘱を受け、その一環として今回のアンケートへの回答をお願いする次第です。

海外で活躍する日本の NGO の活動を支援する目的で、平成 14 年度より外務省が日本 NGO 支援無償資金協力制度（以下、本スキームと略）を実施してまいりました。

そして、このたび、本スキームのより効果的・効率的な実施にとって参考となる教訓・提言を得ること等を目的として、本スキームの目的やプロセス、結果を包括的に評価する調査が、NGO と外務省との共同で実施されています。本アンケートは、NGO の皆様から本スキームに関するご意見をいただき、本件評価調査に活かすためのものです。評価結果が、本スキームの更なる改善につながりますよう、是非とも皆様のご協力を仰ぎたく、宜しくお願い申し上げます。

なお、今回のアンケート結果は、評価結果をまとめ教訓・提言を導き出す以外の目的では使用せず、また、団体名は公表致しません。何卒率直なご意見を伺えますようお願いいたします。また、まことに勝手ではございますが、締め切りを平成 16 年 12 月 9 日（木）とさせていただきます。以下のメールにて、ご返送を宜しくお願い申し上げます。何かご質問などございましたら、同じメールで受け付けております。お忙しいところまことに恐縮ですが、よりよき NGO 支援体制の確立に向けて、ご協力を宜しくお願いいたします。

NGO 外務省合同評価チーム

(NGO)

片山 信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン）

野崎 泰志（日本福祉大学／名古屋 NGO センター）

野田 真里（中部大学／名古屋 NGO センター）

(外務省経済協力局)

北沢 寛治（開発計画課）

中野 正則（民間援助支援室）

小杉 弥恵（民間援助支援室）

中垣 朋博（開発計画課評価班）

(コンサルタント)

福田 幸正（財）国際開発高等教育機構（FASID）

三好 崇弘（財）国際開発高等教育機構（FASID）

E-mail: scheme@fasid.or.jp

1. 基本情報			
(ア) 貴団体の正式な団体名を記入してください。			
(イ) 「日本 NGO 支援無償資金協力」を受けた事業名、事業年度、協力形態名（開発協力、緊急支援等） (以下に直接記入ください)			
<u>事業名</u>	<u>事業年度</u>	<u>金額</u>	<u>形態</u>
・			
・			
・			
(ウ) 本アンケートの回答者名と電子メールアドレス 氏名： メールアドレス：			
2. NGO のニーズ			
(ア) 貴団体が何らかの問題を抱えている場合、代表的なものは何ですか？深刻なものから順に挙げてください。（例：1－3－4） 1.活動資金の不足 2.組織的基盤が弱い 3.人材の不足 4.認知度が低い 5.その他（ ）			
(イ) 特に、資金面において問題はありますか？また、問題がある場合、その原因は何だと思われますか？ ・ ・ ・ ・			

(ウ) 上記を含め問題があると答えた場合には、その（それらの）問題の解決のためにどのような努力を行っていますか？
(エ) 「日本 NGO 支援無償資金協力」は NGO の資金的なニーズにこたえていると思いますか？ ・ [ハイ/どちらかといえばハイ/どちらかといえばイイエ/イイエ] (↑該当するものだけ残して削除してください。) (その理由:)(←以下に理由をお書きください。)
(オ) 貴団体が「日本 NGO 支援無償資金協力」に求めるもの（ニーズ）、あるいは、改善すべきと考えることは何ですか？ (以下に直接記入ください) ・ ・ ・
(カ) 「日本 NGO 支援無償資金協力」制度の中で、現在は必要がないと感じられるような要素はありますか？ (以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・ ・ ・
3. 相手国（政府、カウンターパート、住民）のニーズ
(ア) 相手国（事業が実施されている国の政府、カウンターパート、住民）が、「日本の NGO」に求めている役割は何だと思えますか？ (以下にそれぞれ具体的に箇条書にて記入ください) ・ 政府 ・ カウンターパート ・ 住民

(イ) 貴団体は、どのようにして相手国側のニーズを把握していますか？ (以下にそれぞれ具体的に簡条書にて記入下さい) ・ 政府 ・ カウンターパート ・ 住民
(ウ) 日本の NGO が (ア) でお答え頂いた役割を果たすために、「日本 NGO 支援無償資金協力」はどのような点で支援となっていますか？支援となっていないとすればどのような点ですか？ (以下にそれぞれ具体的に簡条書にて記入ください) ・ 政府 ・ カウンターパート ・ 住民
4. NGO による事業受注
(ア) 事業を受注する場合、NGO が持つべき基本的な姿勢や資格があるとすれば何ですか？ (以下に具体的に簡条書にて記入ください) ・ ・ ・
(イ) 他の先進国では、NGO が民間のコンサルタントと同等に競争し、事業資金を得ている事例がみられますが、日本の NGO も民間コンサルタントと同様の活動をするべきだと思いますか？ [ハイ/どちらかといえばハイ/どちらかといえばイイエ/イイエ] (以下に具体的に簡条書にて記入ください) ・ ・
(ウ) 仮に NGO が民間コンサルタントと同様に事業を受注し活動する場合、ODA の実施者は NGO と民間コンサルタントの間に対応の差を設けるべきだと思いますか？イエス、ノーのいずれの場合でも、そうお考えになる理由をお聞かせ下さい。 (以下に具体的に簡条書にて記入ください)

・ ・
5. 他の支援制度
(ア) 「日本 NGO 支援無償資金協力」以外に資金的な支援制度（国際機関のスキームの他、国内外の公的および民間スキームを含む）を利用したことがあれば、以下に示してください。 （ドナー名、制度名、等、以下に直接記入ください） ・ ・ ・
（イ）他国・国際機関のスキームに申請して採択されなかった事例があれば、その理由は何ですか？また、他国・国際機関のスキームの申請はどのような点がむづかしいと思いますか？
（ウ）（ア）に挙げて頂いた支援制度と比べて、「日本 NGO 支援無償資金協力」の利点や使いやすさはありますか？ （以下に具体的に箇条書にて記入ください） ・ ・ ・
（エ）反対に、「日本 NGO 支援無償資金協力」で改善すべきとお考えになる点や、使いにくい点がありますか？ （以下に具体的に箇条書にて記入ください） ・ ・ ・
（オ） 「日本 NGO 支援無償資金協力」は日本の援助政策にかなっているとお考えですか？ [ハイ/どちらかといえばハイ/どちらかといえばイイエ/イイエ] （その理由：以下に具体的に箇条書にて記入ください） ・ ・

(カ) 日本の ODA 政策全体の中で、「日本 NGO 支援無償資金協力」は有効に機能しているとお考えですか? [ハイ/どちらかといえばハイ/どちらかといえばイイエ/イイエ] (その理由: 以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・ ・						
6. プロセスの適切性						
(ア) 「日本 NGO 支援無償資金協力」の申請から案件の選定、および契約までのプロセスについて、どのように考えますか? お気づきの点をお書き下さい。						
(イ) 申請した日から選定結果の通知、そして資金供与までの日数からみて、そのプロセスにかかる期間やタイミングは適切なものとお考えですか?						
(ウ) 貴団体は「日本 NGO 支援無償資金協力」によって実施している事業のモニタリングや評価をどのように行っていますか?						
(エ) 貴団体が利用したことのある他の公的スキームの運用面で、「日本 NGO 無償資金協力」が見習うべきものがあれば、以下にその名称、及び具体的にどのような点を見習うべきとお考えなのか、理由を付して教えてください。 (以下に直接記入ください) <table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;"><u>名称</u></th> <th style="text-align: center;"><u>見習うべき点、その理由</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	<u>名称</u>	<u>見習うべき点、その理由</u>	・		・	
<u>名称</u>	<u>見習うべき点、その理由</u>					
・						
・						
7. 支援目的の達成度とインパクト						
(ア) 「日本 NGO 支援無償資金協力」による資金供与によって、貴団体の事業活動はどのように促進されたと思いますか? (その理由:)						

(イ)「日本 NGO 支援無償資金協力」により得た資金規模は貴団体の財政規模（年間の総予算額）からみてどの程度の割合（％）を占めますか？
(ウ) 貴団体の組織の大きさも考慮に入れた上で、「日本 NGO 支援無償資金協力」による資金供与の規模は、実施した事業にかかる貴団体の資金的ギャップを十分に埋めるほどのものでしたか？ [ハイ/どちらかといえばハイ/どちらかといえばイイエ/イイエ] (その理由:)
(エ)「日本 NGO 支援無償資金協力」による資金供与によって実施された貴団体の事業についてどのように評価していますか？十分に所期の目的を達成していないとすれば、それはどのような理由からですか？
(オ)「日本 NGO 支援無償資金協力」による資金供与によって、貴団体に対しての、あるいは事業実施地での正のインパクト（環境、社会、制度等における変化）があれば以下に示してください。 (以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・ ・ ・ (例) ・ NGO の組織的及び個人の能力開発 ・ NGO の関連組織との連携強化 ・ 国内での NGO 活動の理解の促進 ・ 現地での日本の援助のプレゼンス拡大 等。
(カ)「日本 NGO 支援無償資金協力」による事業に関し、現地受益者からの正の評価はどのようなものが多いですか？ (以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・

(キ)「日本 NGO 支援無償資金協力」による資金供与によって、貴団体に対しての、あるいは事業実施地での、負のインパクト（環境、社会、制度等における変化）があれば以下に示してください。 (以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・ ・ ・ <u>(例)</u> ・ NGO の公的資金への依存と自立性の退化 ・ NGO の活動範囲への制限 ・ NGO の活動のタイミングの遅れ 等
(ク)「日本 NGO 支援無償資金協力」による事業に関し、現地受益者からの負の評価はどのようなものが多いですか？ (以下に具体的に箇条書にて記入ください) ・
(ケ) 団体への公的支援が増大することについてどのように思いますか？問題があるとお考えであれば、それはどのような点ですか？ (以下に具体的に箇条書にて記入下さい)
8. より良い運営と連携
(ア) より良い日本 NGO 支援無償資金協力の運営のために、政府と NGO はどのように連携していくのが良いと考えますか？
(イ) その他、このアンケート全般に関するご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

このアンケートの結果は、他の調査結果とともに年度末に公表予定の評価報告書に反映させて頂く予定です。(但し、個別の団体名は出しません)

ご協力、本当にありがとうございました。

アンケート用紙② 本スキーム未利用団体用

日本 NGO 支援無償資金協力に関する評価調査のためのアンケートへご協力をお願い

関係各位

此度、(財)国際開発高等教育機構 (FASID) は外務省より「日本 NGO 支援無償資金協力」のスキーム評価業務の委嘱を受け、その一環として今回のアンケートへの回答をお願いする次第です。

海外で活躍する日本の NGO の活動を支援する目的で、平成 14 年度より外務省が日本 NGO 支援無償資金協力制度（以下、本スキームと略）を実施してまいりました。

そして、このたび、本スキームのより効果的・効率的な実施にとって参考となる教訓・提言を得ること等を目的として、本スキームの目的やプロセス、結果を包括的に評価する調査が、NGO と外務省との共同で実施されています。本アンケートは、NGO の皆様から本スキームに関するご意見をいただき、本件評価調査に活かすためのものです。評価結果が、本スキームの更なる改善につながりますよう、是非とも皆様のご協力を仰ぎたく、宜しくお願い申し上げます。

なお、今回のアンケート結果は、評価結果をまとめ教訓・提言を導き出す以外の目的では使用せず、また、団体名は公表致しません。何卒率直なご意見を伺えますようお願いいたします。また、まことに勝手ではございますが、締め切りを平成 16 年 12 月 9 日 (木)とさせていただきました。以下のメールにて、ご返送を宜しくお願い申し上げます。何かご質問などございましたら、同じメールで受け付けております。お忙しいところまことに恐縮ですが、よりよき NGO 支援体制の確立に向けて、ご協力を宜しくお願いします。

NGO 外務省合同評価チーム

(NGO)

片山 信彦 (ワールド・ビジョン・ジャパン)

野崎 泰志 (日本福祉大学／名古屋 NGO センター)

野田 真里 (中部大学／名古屋 NGO センター)

(外務省経済協力局)

北沢 寛治 (開発計画課)

中野 正則 (民間援助支援室)

小杉 弥恵 (民間援助支援室)

中垣 朋博 (開発計画課評価班)

(コンサルタント)

福田 幸正 (財)国際開発高等教育機構 (FASID)

三好 崇弘 (財)国際開発高等教育機構 (FASID) E-mail: scheme@fasid.or.jp

1. 基本情報
(ウ) 正式な団体名を記入してください。
(エ) 本アンケートの回答者名と電子メールアドレス 氏名: メールアドレス:
2. 日本 NGO 支援無償資金協力について
(オ) 日本 NGO 支援無償資金協力をご存知でしたか? (選択した答のみを残して、後は削除してください) a. 知らなかった。 (質問イに進んでください) b. 名称は知っていたが、内容については知らなかった。 (質問イに進んでください) c. 知っていたが、申請したことはない。 (質問ウに進んでください) d. 申請はしたが、選定されなかった。 (質問エに進んでください)
(カ) 「知らなかった」または「内容について知らなかった」理由について教えてください。 (選択した答のみを残して、後は削除してください。複数回答可) a. 公的な活動資金源の情報に興味がない。 b. 資金源について興味はあるが、情報収集はしていない。 c. 情報収集はしていたが、知らなかった。 d. その他 () (質問エに進んでください)
(キ) 「知っていた」が、申請しなかった理由について教えてください。 (選択した答のみを残して、後は削除してください。複数回答可) a. 申請の仕方がわからなかった。 b. 申請手続きが面倒そうなのでやめた。 c. 事業の活動資金が十分にあった。 d. 既存の事業で手一杯だった。 e. 申請の時期やタイミングが合わなかった。 f. その他 ()

(質問エに進んでください)
(ク) 今後、日本 NGO 支援無償資金協力に申請したいと思いますか? (一つ選択して他を削除してください。またその理由を具体的に書いてください) a. ぜひ、申請してみたい。 b. 興味はあるので、検討してみたい。 c. 検討するが、たぶん申請しない/できないと思う。 d. 申請したくない。 (以下、理由: 具体的に)
3. 活動の財源について
(ケ) 貴団体の活動資金について、主な財源はどこからですか? 具体的に書いてください。 ・ ・ ・
(コ) 活動資金の財源について、貴団体の抱えている問題は何ですか? ・ ・ ・ ・
(サ) 上記の問題で、その主な原因は何と思いますか? ・ ・ ・ ・
(シ) 上記の問題の解決のために、政府がどのように支援する事が必要だと考えますか? ・ ・ ・

(ス) より良い日本 NGO 支援無償資金協力の運営のために、政府と NGO はどのように連携しているのが良いと考えますか？ ・ ・ ・
(セ) その他、このアンケート全般に関するご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

このアンケートの結果は、他の調査結果とともに年度末に公表予定の評価報告書に反映させて頂く予定です。(但し、個別の団体名は出しません)
ご協力、本当にありがとうございました。

国内インタビュー 面談者一覧

千葉ライオンズクラブ:

松井 道雄 親睦・交流

国際開発救援財団(FIDR):

角 能成 事務局長

小山 直行 助成事業担当

スクール・エイド・ジャパン(SAJ):

住田 平吉 事務局長

日本紛争予防センター(JCCP):

小林 龍夫 事務局長

南 香子 事務局副査・研究員

JHP・学校をつくる会:

吉岡 健治 事務局長

中込 祥高 事務局次長

日本地雷処理を支援する会(JMAS):

織田 壽雄 プロジェクト コーディネータ

カンボジア現地調査日程表

2004 年 12 月/ 日	時間	活 動
14 日(火)	移動	成田 バンコク経由 プノンペン (コンサルタント)
15 日(水)	終日	<u>視察 1:</u> ヴィヒヤークポーツ小学校 (千葉県ライオンズクラブカンボジアプロジェクト=CLCP)
16 日(木)	午前	JICA 事務所訪問及びインタビュー
	午後	日本地雷処理を支援する会=J MAS プノンペン事務所訪問及びインタビュー 米国国際開発庁(USAID)事務所訪問及びインタビュー
	移動	成田 バンコク経由 プノンペン (コンサルタント以外の調査団)
17 日(金)	終日	訪問及びインタビュー: 教育省 CDC (Council for the Development of Cambodia) CMAC (Cambodian Mine Action Center) 保健省
18 日(土)	午前	<u>視察 2:</u> 国立小児病院 (国際開発救援財団=FIDR)
	午後	資料整理
19 日(日)	終日	<u>視察 3:</u> キエンタマー小学校 (スクール・エイド・ジャパン=SAJ)
20 日(月)	午前	在カンボジア日本国大使館訪問及びインタビュー 外務国際協力省訪問及びインタビュー
	午後	<u>視察 4:</u> アンドン・ポ小学校 (日本紛争予防センター=JCCP)
21 日(火)	午前	<u>視察 5:</u> コンボンスプー州師範学校 (JHP・学校をつくる会)
	午後	<u>視察 6:</u> センソック小学校 (JHP・学校をつくる会)
22 日(水)	移動	プノンペン バンコク経由 成田/名古屋

カンボジア現地調査 面談者一覧

ヴィヒヤークポーツ小学校:

Mr. Duong Man (ヴィヒヤークポーツ小学校校長)
Mr. Tith Sareth (タケオ州トランコ地区教育局)
メヤス・トミー氏 (オーバーコーンライオンズクラブ LC: CLCP のカウンターパート)

JICA 事務所:

三次 啓都氏 (カンボジア事務所次長)
原口 明久氏 (カンボジア事務所 NGO デスク)

USAID 事務所:

Mr. Paul Randolph (Democracy & Governance Div. Chief)
Mr. Sophan Rath (Project Management Specialist)

教育省:

Mr. Im Sethy (Secretary of State) 他

CDC:

Mr. Om Tara (Director of NGO and Coordination Dept.)
Mr. Mok Tuthy (Chief of NGO and Coordination Dept.) 他

CMAC:

Mr. Heng Ratana (Deputy Director General)
Mr. Him Vandy (Chief of Operations) 他

保健省:

Prof.Eng.Hout (Secretary of State)

国立小児病院:

Dr. Simon Laszio Janos (小児科医、プロジェクトファシリテーター)
林 英一郎氏 (FIDR 事務所長)

キエンタマー小学校:

Ms. Pen Sophany (キエンタマー小学校校長)
Mr. Koy Toun (クム地区学校建設促進委員会)
Ms. Choury Tep (SAJ 事務所長) 他

在カンボジア日本国大使館:

井上 進氏 (公使)

惟住 智昭氏(経済協力班 NGO 担当)

外務国際協力省:

Mr. Ouch Borith (Secretary of State) 他

アンドン・ポ小学校:

Mr. Om Norm (Dept. Director, 地区教育局)

Mr. Man Neun (Director, Commune cluster school)

Mr. Thoung Tang In (校長、アンドンポ小学校)

寺西 悦子氏 (JCCP カンボジア派遣職員) 他

コンボンスプー州師範学校:

Mr. Chheas Dim (コントンスプー州師範学校校長)

Mr. Chhem On (コントンスプー州師範学校管理部長)

Mr. Touch Samlon (コントンスプー州師範学校技術部長)

清国正義氏 (JHP カンボジア事務所 学校担当)

安延崇氏 (JHP カンボジア事務所 学校担当)

センソック小学校:

Mr. Rim Ret (センソック小学校校長)

Mr. Sok Than (センソック小学校 副校長)

現地調査用質問票

Evaluation Study on Grant Assistance for Japanese NGO Projects
(Case Study in the Kingdom of Cambodia)

- Background -

(Grant Assistance for Japanese NGO Projects)

Grant Assistance for Japanese NGO Projects (hereinafter referred to as “The scheme”) is a scheme of Japanese government that provides financial assistance for social and economic development and emergency humanitarian assistance projects undertaken by Japanese NGOs in developing countries and regions. The scheme was commenced in 2002.

(Note) The basic content of the scheme consists of: (i) support for economic and social development cooperation activities that have a direct effect at the grassroots level (assistance for development cooperation projects); (ii) assistance in NGOs Partnership Projects (iii) Grant Aid for NGO Emergency Humanitarian Assistance (including assistance through the Japan Platform); (iv) assistance in transportation costs for recycled goods; (v) micro-credit capital assistance; and (vi) assistance for anti-personnel landmine-related activities.

(About the Study)

As the scheme has been implemented since 2002, an evaluation study on the scheme is currently being conducted to review the following three aspects, namely, ‘purpose’, ‘process’ and ‘results’ of the scheme. It is a comprehensive analysis of what the ‘purpose’ of the scheme was, what kind of ‘process’ was followed during procedure, and what ‘results’ were brought about. It aims to obtain lessons learnt and recommendations for more effective and efficient implementation of the scheme. It is also aimed to fulfill public accountability to Japanese people.

(Joint Evaluation Team of Japanese NGOs and the Ministry of Foreign Affairs of Japan)

For the Study, a Joint Evaluation Team of Japanese NGOs and the Ministry of Foreign Affairs of Japan has been formed. The members list of the study team is as follows.

Prof. Yasushi Nozaki (Director, Nagoya NGO Center/ Associate Professor, Faculty of Healthcare Management, Department of Social Development and Management, Nihon Fukushi University)

Prof. Masato Noda (Director, Nagoya NGO Center/ Associate Professor, Department of International Relations, College of International Studies, Chubu University)

Ms. Yae Kosugi (Deputy Director, Non-Governmental Organizations Assistance Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan)

Mr. Tomohiro Nakagaki (Deputy Director, ODA Evaluation Unit, Aid Planning Division, Ministry of Foreign Affairs of Japan)

Mr. Yukimasa Fukuda (Consultant, Senior Deputy Director, International Development Research Institute, Foundation for Advanced Studies on International Development)

Mr. Takahiro Miyoshi (Consultant, International Development Research Institute, Foundation for Advanced Studies on International Development)

Ministry of Education, Youth and Sport Kingdom of Cambodia

- 1) In the current situation, what are the needs and problems in “Education” sector of Cambodia? (1-③-1) ←評価フレーム番号
- 2) For the above needs/problem (s) , what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs? (1-③-2)
- 3) What are the expected roles, responsibilities and capabilities of international NGOs in development activities in Cambodia? (1-③-3)
- 4) What do you think is necessary for international NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
- 5) How do you evaluate the activities of international NGOs including Japanese NGOs? (3-②-4,5) Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their operation systems and financial conditions?
- 6) Do you have any opinions about the strengths and weakness of international NGOs? (1-③-3)

Ministry of Health Kingdom of Cambodia

- 1) In the current situation, what are the needs and problems in “Health” sector of Cambodia? (1-③-1)
- 2) For the above needs/problem (s) , what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs? (1-③-2)
- 3) What are the expected roles, responsibilities and capabilities of international NGOs in development activities in Cambodia? (1-③-3)
- 4) What do you think is necessary for international NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
- 5) How do you evaluate the activities of international NGOs including Japanese NGOs? (3-②-4,5) Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their operation systems and financial conditions?
- 6) Do you have any opinions about the strengths and weakness of international NGOs? (1-③-3)

Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation Kingdom of Cambodia

- 1) In the current situation, what are problems and challenges for development of Cambodia? (1-③-1)
- 2) For the above problem (s) , what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs? (1-③-2)
- 3) What are the expected roles, responsibilities and capabilities of international NGOs in development activities in Cambodia? (1-③-3)
- 4) What do you think is necessary for international NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
- 5) How do you evaluate the activities of international NGOs including Japanese NGOs? (3-②-4,5) Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their operation systems and financial conditions?
- 6) Do you have any opinions of strengths and weakness of international NGOs? (1-③-3)

Council for the Development of Cambodia (CDC) Kingdom of Cambodia

- 1) In the current situation, what are problems and challenges for development of Cambodia? (1-③-1)
- 2) For the above problem (s) , what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs? (1-③-2)
- 3) What are the expected roles, responsibilities and capabilities of international NGOs in development activities in Cambodia? (1-③-3)
- 4) What do you think is necessary for international NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
- 5) How do you evaluate the activities of international NGOs including Japanese NGOs? (3-②-4,5) Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their operation systems and financial conditions?
- 6) Do you have any opinions about the strengths and weakness of international NGOs? (1-③-3)

- 1) In the current situation, what are the needs and problems of CMAC? (1-③-1)
- 2) For the above problem (s) , what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs such as JMAS? (1-③-2)
- 3) What are the expected roles, responsibilities and capabilities of international NGOs in development activities in Cambodia? (1-③-3)
- 4) What do you think is necessary for international NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
- 5) How do you evaluate the activities of JMAS/ CMAC? What are the positive impacts from the activities? Do you see any problem in their activities? (3-②-4,5)
- 6) Do you know of any landmine-related activities conducted by Japanese NGOs? If so, how do you evaluate them and their activities? Can you compare their feature with that of other international NGOs and their activities? (1-③-3)
- 7) Do you have any opinions about the strengths and weakness of international NGOs? (1-③-3)

The Beneficiaries of Japanese NGO's Project

1. In the current situation, what are problems and challenges for your village (or area / hospital)? (1-③-1)
2. For the above problem(s), what kind of assistance do you expect from international NGOs including Japanese NGOs? (1-③-2)
3. Do you think that Japanese NGOs to effectively fulfill their roles and conduct assistance projects? (1-③-3)
4. How do you evaluate this school (or hospital) project implemented by the Japanese NGO? (3-②-4,5)
5. How do you view the impact (positive / negative) of the scheme? What could have happened if there were not any financial assistance like this scheme? (3-④)
6. Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their approaches to villagers?

USAID

- 1) What are the expectations and needs of Cambodian people, government and local NGOs for international NGOs working in Cambodia? (1-③-1,2)
- 2) What kind of supports for international NGOs is necessary to meet the above expectations and needs? What kind of effort should be made by NGOs themselves? (1-③-3)
- 3) Does your organization have any assistance scheme like the "Grant Assistance for Japanese NGO Projects," that financially supports NGOs' activities? If so, please give us an overview of the content and operation procedure of the scheme, including the selection criteria of NGOs and their projects. How do you compare it with the Japanese scheme? (1-③-2)
- 4) How many months in average does it take to provide the approved amount after receiving the proposal? Do you think that the duration is appropriate in terms of timing? (2-②-1,2)
- 5) Do you know of any other financial assistance scheme for NGOs, such as Japan's "Grant Assistance for Japanese NGO Projects"? How do you compare it with the Japanese scheme? (1-④-3)
- 6) How does your organization monitor the use by the NGOs of the grant and their project implementation after providing the approved amount? Do you know how NGOs manage the grant and the project implemented by the grant? (2-③-1,2,3)
- 7) How do you evaluate the activities of NGOs which received your financial supports? (3-②-4,5)
- 8) What are the positive and negative impacts of your financial support for NGOs? (3-③)
- 9) Do you see any difference between Japanese NGOs and other international NGOs in the content of their activities, their operation systems and financial conditions? (1-③-3)

日本 NGO 無償資金協力の評価調査にかかる質問票

－ 背 景 －

「日本 NGO 無償資金協力について」

海外の途上国において社会・経済開発及び緊急人道援助事業を実施する日本の NGO の活動を支援する目的で、平成 14 年度より外務省が日本 NGO 支援無償資金協力制度（以下、本スキームと略）を実施してまいりました。

注釈：本スキームは以下の 6 つの形態からなっています。「開発協力事業支援(草の根レベルに直接役立つ経済・社会開発事業)」、「NGO パートナリシップ事業支援(日本の NGO が他の NGO 等と連携・協同して行う開発協力事業。旧称「セクター連携支援」)」、「NGO 緊急人道支援(武力紛争、自然災害等の被災地の現場で実施する事業。旧称「NGO 緊急活動支援無償」)」、「リサイクル物資輸送費支援(中古物資を NGO が引き受け、途上国に贈与する際の輸送費等)」、「マイクロクレジット原資支援(現地でマイクロクレジットの実績ある NGO への原資供与)」、「対地雷関係支援(地雷不発弾除去、犠牲者支援、地雷回避教育等)」

「評価調査について」

平成 14 年度より実施されてきましたが、このたび、本スキームの目的やプロセス、結果を包括的に評価する調査が、NGO と外務省との共同で実施されています。本スキームの「目的」が何であったのか、手続き上でどのような「プロセス」がとられたのか、そして「結果」はどうであったのか、を問う総合的な評価調査です。その目的は本スキームのより効果的・効率的な実施にとって参考となる教訓・提言を得ること、及び公的な説明責任(アカウンタビリティ)を確保することです。

「合同評価調査団について」

この評価のために NGO と外務省による合同評価調査団が結成されました。以下が、調査団員リストです。

氏 名 (所 属 及 び 肩 書)

野崎 泰志 (名古屋 NGO センター 理事、日本福祉大学 助教授)

野田 真里 (名古屋 NGO センター 理事、中部大学 助教授)

小杉 弥恵 (外務省 民間援助支援室 課長補佐)

中垣 朋博 (外務省 開発計画課評価班 課長補佐)

福田 幸正 ((財)国際開発高等教育機構 (FASID) 研究センター コンサルタント)

三好 崇弘 ((財)国際開発高等教育機構 (FASID) 研究センター コンサルタント)

支援対象 NGO

(日本 NGO のニーズ)

1. 現地で活動をしていて、資金面からみた NGO の抱えている実際の問題や具体的な課題は何だと思われますか？ (1-②-1)
2. あなたは本スキーム（日本NGO支援無償資金協力スキーム）の内容について十分ご存じですか？
3. 本スキームは、上記の問題・課題に十分に応えていると思いますか？もし十分に応えていないとすれば、具体的にスキームのどのような点においてですか？ (1-②-2)

(現地関係者のニーズ)

4. どのような方法により現地でのニーズ把握に努めていますか？
5. 現地で活動をしていて、NGO に対する現地関係者（政府・カウンターパート・住民）のニーズや期待されている役割は何だと感じますか？ (1-③-1,2)
6. 上記のような NGO への現地関係者の期待に応えるために、本スキームはどのように役に立っていますか？もし課題があるとすれば、それは何ですか？
7. 一方で、NGO 自身に取り組むべき課題は何ですか？ (1-③-3)

(他のスキームとの比較)

8. 他ドナーの資金支援スキームの支援を受けたことがありますか？
9. （受けたことがある場合）本スキームと比較して他のスキームでお気づきの点（採択までの期間、申請条件、プロセス等）があれば、教えてください。(1-④-3)

(供与プロセス・タイミング)

10. 現地で活動をしていて、本スキームの審査プロセスや資金供与のタイミングについては適切だと思われますか？ (2-②-1,2)
11. 審査のプロセスや資金供与のタイミングについて改善すべき点があるとすれば何ですか？ (2-②-3)

(供与後の管理体制)

12. 資金供与後の資金管理体制について、具体的にどう管理しているか教えてください。(2-③-1,2)
13. 資金供与がされた事業のモニタリング・評価体制は十分だと思いますか？具体的にどのようにモニタリング・評価しているか教えてください。(2-③-3)

(結果・インパクト等)

14. 本スキームによる資金の供与額は、貴団体の実施体制、経理体制からみて適切なレベルでしたか？ (3-②-2,3)
15. 本スキームの支援対象事業の当初目標は達成しましたか？達成した場合またはしなかった場合の主な原因は何ですか（資金、技術、体制、予見しえない事情等）？ (3-②-4,5)

16. 本スキームの支援によるインパクト（正負の影響）は何だと思いますか?もしこの本スキームの支援がなかったら起きなかったことは何ですか? (3-③)

(その他)

17. 実施案件の自立発展性（sustainability）を確保するためにどのようなことを実施していますか?

在カンボジア日本大使館

- 1) 日本の NGO に対する現地関係者（政府・カウンターパート・住民）のニーズや期待されている役割は何だと感じますか? (1-③-1,2)
- 2) 上記のような日本の NGO への現地関係者の期待に応えるために、本スキームは十分な支援となっていますか? 応えていないとすれば、具体的にスキームのどのような点においてですか?
- 3) NGO 自身が取り組むべき課題は何ですか? (1-③-3)
- 4) JICA 草の根技術協力など他の支援スキームと比較して、本スキームの特徴（使いやすさ等）や課題についてはどう考えられていますか? (1-④-3)
- 5) 本スキームの審査プロセスや資金供与のタイミングについては適切だと思われませんか? (2-②-1,2) また、審査のプロセスや資金供与のタイミングの迅速性を高めるとすれば、どのような点を改善するべきだと思いますか? (2-②-3)
- 6) 資金供与後の NGO 側の資金管理体制やモニタリング・評価体制は十分だと思いますか? また、大使館としてはどう管理に関わっていますか?それは十分に機能していると思いますか? (2-③-1,2,3)
- 7) 本スキームの支援対象事業の各目標は達成しているようですか?達成した場合またはしなかった場合の主な原因はどのようなものが多いですか? (3-②-4,5)
- 8) 資金供与額のレベルは NGO の実施体制、経理体制等から見て適切だったと考えられますか? (3-①)
- 9) 本スキームの支援によるインパクト（正負の影響）は何だと思いますか? (3-③)
- 10) 日本を含む国際 NGO の果たすべき役割についてどう考えていますか?また日本と他の国の NGO の間に活動のスタイルや組織的または財政的能力などの違いはあると思いますか? (1-③-3)
- 11) 本スキームがより効果的かつ効率的になるように改善すべきところがあれば、教えてください。

JICA NGO デスク

- 1) 日本の NGO に対する現地関係者（政府・カウンターパート・住民）のニーズや期待されている役割は何だと感じますか？（1-③-1,2）
- 2) 上記のような日本の NGO への現地関係者の期待に応えるためには、何が必要ですか？一方で、NGO 自身に取り組むべき課題は何ですか？（1-③-3）
- 3) JICA 草の根技術協力について、カンボジアでの実績、対象 NGO およびプロジェクトの選定基準やプロセスについて教えてください。（1-④-3）
- 4) JICA 草の根技術協力と本スキームの位置づけや役割の違いについて、どのように考えていますか？（1-④-3）
- 5) （他ドナー国・国際機関のスキーム内容について御存じであれば）日本のスキームと比較して、他のスキームでお気づきの点（採択期間、申請条件、プロセス等）があれば教えてください。
- 6) JICA 草の根技術協力は通常申請から資金供与までどれくらいの日数をかけていますか？審査プロセスや資金供与のタイミングについては適切だと思いますか？（2-②-1,2）また、審査のプロセスや資金供与のタイミングの迅速性を高めるために、何か改善を測っていますか？（2-②-3）
- 7) 資金供与後の NGO 側の資金管理体制やモニタリング・評価体制は十分だと思いますか？また、供与側の JICA はどのように管理に関わっていますか？それは十分に機能していると思いますか？（2-③-1,2,3）
- 8) 支援対象事業の各目標は達成しているようですか？達成した場合またはしなかった場合の主な原因はどのようなものが多いですか？（3-②-4,5）
- 9) 資金供与額のレベルは NGO の実施体制、経理体制等から見て適切だったと考えられますか？（3-①）
- 10) 草の根技術協力の支援によるインパクト（正負の影響）は何だと思いますか？（3-③）
- 11) 日本を含む国際 NGO の果たすべき役割についてどう考えていますか？また日本と他の国の NGO の間に活動のスタイルや組織的または財政的能力などの違いはあると思いますか？（1-③-3）
- 12) 日本の NGO に対する日本政府の支援について、今後の改善すべきところがあれば教えてください。

2002 年度 日本 NGO 支援無償資協力 地域・国名別 実績

	G/C 締結日	案件名	被供与団体名	形態	供与額 (円)
(東アジア地域)					228,641,395
インドネシア	2003/3/14	中部ジャワ州ボヨラリ県におけるアチェ避難民再定住支援計画	(特活) ピースウィンズ・ジャパン	開発協力	2,091,080
ベトナム	2002/11/25	小規模貸付事業	(社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	マイクロ・クレジット	10,040,966
カンボジア	2002/12/23	アンドン・ポ小学校建設プロジェクト	(特活) 日本紛争予防センター	開発協力	3,843,122
	2003/1/17	ブノンペン市教師養成学校中古机椅子供与計画	(特活) ジェイエイチピー・学校をつくる会	リサイクル	1,527,928
	2003/2/27	センソック小学校校舎 1 棟建設	(特活) ジェイエイチピー・学校をつくる会	開発協力	4,406,884
	2003/3/13	国立小児病院外科入院病棟建設事業	(財) 国際開発救援財団	開発協力	19,884,170
		カンボジア・プレイヴェーン州における不発弾処理	(特活) 日本地雷処理を支援する会	対人地雷	42,500,652
タイ	2003/3/12	タイ・クメール遺跡地雷除去プロジェクト	(特活) 人道目的の地雷除去支援の会	対人地雷	77,713,756
フィリピン	2003/1/10	ネグロス農民・農村女性自立支援プロジェクト	(進学) アジア学院	開発協力	8,807,546
ミャンマー	2003/2/3	インセイン地区第 5 基礎教育小学校整備事業	(特活) アジアの教育厚生支援の会	開発協力	3,050,000
	2003/3/3	子どもの健康と栄養事業	(社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	開発協力	9,888,588
	2003/3/18	ミャンマー中央乾燥地域チャウパドン・タウンシップにおける井戸建設による生活改善事業	(特活) ブリッジエーシア ジャパン	開発協力	9,685,759
ラオス	2003/2/25	ラオスへの救急車・消防車及び学校用品等援助計画	埼玉ラオス友好協会	リサイクル	9,994,484
	2003/2/26	ラオスにおけるポリオ等の感染症サーベイランスシステムと緊急医療連絡を効率化する為の無線通信設備の設置とその修理・その保守技術の移転	(特活) ビー・エイチ・エヌテレコム支援協議会	開発協力	9,995,704
東ティモール	2003/3/13	地域開発研修センターに対する中古機材供与計画	(財) オイスカ	リサイクル	5,894,674
	2003/3/18	東ティモール東北海岸地域の漁業組合復興計画	育英海外ボランティア	開発協力	9,316,082
(南西アジア地域)					56,394,185
ネパール	2002/10/11	労働組合による非正規学校プロジェクト	(財) 国際労働財団	開発協力	5,473,699
		労働組合による労働安全衛生プロジェクト	(財) 国際労働財団	開発協力	3,127,062
	2003/3/3	カガチ村診療所建設計画	宮城国際支援の	開発協力	5,958,602

			会		
	2003/3/4	歩道橋建設計画	(特活)エル・エンジェル	開発協力	7,762,860
パキスタン	2002/10/11	労働組合による労働安全衛生プロジェクト	(財)国際労働財団	開発協力	5,511,518
バングラデシュ	2003/2/27	NGO ネットワーク・トレーニング・コミュニティセンター建設計画	日本バングラデシュ文化交流協会	開発協力	9,948,368
スリランカ	2003/1/6	北部地域の公共施設の復興支援	(特活)ブリッジ・エーシア・ジャパン	開発協力	9,878,096
	2003/3/7	コミュニティ復興支援事業	(特活)アムダ	開発協力	8,733,980
(中東地域)					139,172,271
ヨルダン	2002/11/19	環境保全型試験農場施設整備計画	(社)日本国際民間協力会	開発協力	4,355,766
アフガニスタン	2002/11/21	病院用ベッド・車椅子等寄贈計画	アフガニスタンへ病院用ベッドを贈る会	リサイクル	4,849,609
	2002/12/26	トラウマ・PTSD に苦しむ戦災孤児支援プロジェクト	(特活)アジア戦災孤児救済センター	開発協力	9,918,445
	2003/1/17	カブールにおける女子学生・女性教員の制服作成技術指導及び支給プロジェクト	(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	開発協力	9,782,865
	2003/1/31	カブール市冬季緊急医療事業	(財)日本国際親善厚生財団	開発協力	9,558,534
		カブール県学校再建事業	(特活)ピースウィンズ・ジャパン	開発協力	46,993,379
	2003/2/4	ヘラート州ゴルラン郡住民に対する保健医療改善プロジェクト	(社)日本国際民間協力会	開発協力	19,106,170
	2003/2/13	バルフ大学医学部支援事業	(特活)日本医療救援機構	開発協力	7,509,127
	2003/3/3	バルフ州チャールボラック村診療所支援事業	(特活)日本医療救援機構	開発協力	9,373,132
	2003/3/20	戦災孤児のトラウマ・PTSD 治療のための現地人材育成プロジェクト	(特活)アジア戦災孤児救済センター	開発協力	8,634,807
		リーシュマニア・マラリア撲滅プロジェクト	燈台(アフガン難民救援協力会)	開発協力	9,090,437
(アフリカ地域)					93,447,462
ガーナ	2002/10/22	カジェロ地区小学校建設・施設整備計画	オアシス・ガーナ友の会	開発協力	3,587,044
	2003/3/24	オコムフォ・アノケイ教育病院への中古救急車供与計画	(特活)エリオス	リサイクル	1,747,416
モーリタニア	2002/10/24	サハラ砂漠地域の僻地村落に緊急無線連絡網の建設援助	国際アマチュア無線ボランティアズ	開発協力	9,432,090
	2002/12/19	モーリタニア内陸部僻地村落への医療及び自立支援事業	SAVE THE AFRICA	開発協力	9,799,350
ザンビア、ジンバブエ	2003/1/27	ザンビア・ジンバブエ労働者教育プロジェクト	(財)国際労働財団	開発協力	3,114,435
ザンビア	2003/3/6	母国帰還前のアンゴラ難民に対する地雷回避教育計画	(特活)難民を助ける会	対人地雷	8,430,688

	2003/3/17	ザンビア国ルカサ市コミュニティヘルスポスト建設プロジェクト	(特活) アムダ	開発協力	11,173,889
ナミビア、ボツワナ	2003/1/27	ナミビア・ボツワナ労働者教育プロジェクト	(財) 国際労働財団	開発協力	3,772,833
ウガンダ	2003/1/16	カリンズ森林環境教育センター建設計画	(特活) カリンズ森林プロジェクト	開発協力	2,103,280
ジブチ	2003/3/3	ポールフォール結核病院衛生環境改善事業	(特活) アムダ	開発協力	13,437,792
エチオピア	2003/3/17	ラリベラ初等教育・衛生計画	(特活) フー太郎の森基金	開発協力	9,345,791
シェラレオネ	2003/3/20	ジミ・リベリア難民キャンプ住環境整備事業	(特活) ピースウィンズ・ジャパン	開発協力	8,111,267
		バンダジュマ・リベリア難民キャンプ水道・衛生設備整備事業	(特活) ピースウィンズ・ジャパン	開発協力	9,391,587
(中南米地域)					1,064,572
グアテマラ	2002/11/22	グアテマラにおける湖の自然資源の持続的利用・管理のための環境教育計画	日本ラテンアメリカ教育ネットワーク	開発協力	1,064,572
(大洋州地域)					26,041,378
ソロモン	2002/12/2	ソロモン諸島定置型有機農業振興プロジェクト	(特活) エーピーエスディ	開発協力	9,894,800
パプアニューギニア	2003/2/28	地域開発研修施設拡充計画	(財) オイスカ	開発協力	9,184,892
フィジー	2003/3/4	地域青年による植林を通じた環境教育の推進	(財) オイスカ	開発協力	6,961,686
(ヨーロッパ地域)					43,184,336
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2002/10/30	ソクラツ地域密着型リハビリテーション・センター建設計画	(特活) JEN	開発協力	9,987,300
	2002/12/18	ボスニアにおける帰還民に対する収入創出支援計画	(特活) JEN	開発協力	5,932,224
マケドニア	2003/1/9	クマノボ医療センターへの携帯型移動式レントゲン機材の供与	(特活) 難民を助ける会	開発協力	8,349,048
		聴覚・言語障害児リハビリテーション施設への診断・治療機材の供与	(特活) 難民を助ける会	開発協力	3,046,248
セルビア・モンテネグロ	2003/2/25	コソヴォのブランコ小学校修復事業	日本救援行動センター	開発協力	9,518,074
		コソヴォ・オビリチ区の清掃事業	日本救援行動センター	開発協力	6,351,442
(NIS 地域)					3,416,488
タジキスタン	2003/2/21	障害者リハビリテーション総合病院への診断・治療機材の供与計画	(特活) 難民を助ける会	開発協力	2,211,860
		国立障害児特殊寄宿学校への暖房器具及び冬物衣類の供与計画	(特活) 難民を助ける会	開発協力	1,204,628
計 32 カ国/60 件/36 団体					¥591,362,087

(出所)：外務省ホームページより作成。

2003 年度 日本 NGO 支援無償資協力 地域・国別 実績

国	G/C 締結日	案件名	被供与団体名	形態	供与額 (円)
東アジア地域					236,809,532
インドネシア	2003 年 11 月 4 日	ギアーニア病院に対する中古救急車供与計画	(特活) プロジェクト HOPE ジャパン	リサイクル	507,690
	2004 年 3 月 15 日	地域保健医療システム強化事業	(特活) プロジェクト HOPE ジャパン	開発協力	19,725,692
カンボジア	2003 年 7 月 4 日	コンボンスプー県師範学校及びタケオ県トラムカナー高校に対する中古机椅子供与計画	(特活) JHP・学校をつくる会		1,889,536
	2003 年 8 月 11 日	ヴィヒヤークポーツ小学校建設プロジェクト	千葉県ライオンズクラブカンボジア支援プロジェクト	開発協力	3,578,748
	2004 年 3 月 5 日	カンボジア・キエンタマー小学校建設プロジェクト	(特活) スクール・エイド・ジャパン	開発協力	5,075,200
タイ	2003 年 9 月 24 日	東北タイエイズ予防・感染者支援プロジェクト	(特活) シェア＝国際保健協力市民の会	開発協力	18,906,096
	2003 年 12 月 4 日	タイ国における地域自立のための地場の市場促進プロジェクト	(特活) 日本ボランティアセンター	開発協力	8,046,754
中国	2003 年 7 月 9 日	ショウ県職業高校職業技能訓練センター建設計画	関西日中交流懇談会	開発協力	9,383,628
東ティモール	2003 年 7 月 11 日	東ティモール・リキシャ地域における農業者育成プロジェクト	(財) オイスカ	開発協力	19,989,456
	2004 年 3 月 24 日	東ティモールにおける歯科医療復興と巡回診療プログラム	(特活) 歯科医学教育国際支援機構	開発協力	9,743,869
フィリピン	2003 年 10 月 29 日	アエタ族の薬樹栽培技術取得のためのモデルファーム設置プロジェクト	(特活) ACTION	開発協力	7,113,088
	2004 年 3 月 15 日	手工芸品実務者育成計画	(特活) 地球ボランティア協会	開発協力	6,670,767
ベトナム	2003 年 10 月 31 日	ベトナム就学前教育プロジェクト	(財) 日本フォスター・プラン協会	開発協力	18,690,156
	2004 年 3 月 1 日	ベトナム国イエンチョウ郡公衆衛生改善支援プロジェクト	(特活) アムダ	開発協力	9,913,964
		ベトナム国タンザンコミュニケーション保健医療サービス向上支援プロジェクト	(特活) アムダ	開発協力	9,839,788
マレーシア	2003 年 12 月 5 日	マレーシア・サラワ州僻地救急支援画像通信システム	(特活) BHN テレコム支援協議会	開発協力	9,021,422
ミャンマー	2003 年 12 月 12 日	ラカイン州北部チャウパンドゥ村における小規模橋梁建設による村落のアクセス改善事	(特活) ブリッジエーシアジャパン	開発協力	9,780,104

		業			
	2004 年 1 月 13 日	ラカイン州アングモ村落の棧橋建設によるアクセス改善事業	(特活) ブリッジ エーシアジャパン	開発協力	14,527,488
	2004 年 3 月 1 日	ラカイン州北部ミンルート村における小規模橋梁建設による村落生活改善事業	(特活) ブリッジ エーシアジャパン	開発協力	9,933,330
	2004 年 3 月 15 日	ミャンマー中央乾燥地における既存井戸修繕による生活用水供給	(特活) ブリッジ エーシアジャパン	開発協力	9,082,752
	2004 年 3 月 22 日	タイ国境沿岸地域における HIV/AIDS 対策事業	(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン	開発協力	15,416,408
ラオス	2004 年 1 月 26 日	ヴィエンチャン特別市教育局教育活動開発センター建設事業	(特活) ラオスのこども	開発協力	9,989,604
	2004 年 3 月 17 日	読書推進・青少年活動推進事業	(社) シャンティ 国際ボランティア会	開発協力	9,983,992
南西アジア地域					224,386,167
インド	2003 年 12 月 8 日	インドの孤児救済と貧しい人達への医療提供	(特活) レインボー国際協会	開発協力	1,661,427
	2004 年 3 月 10 日	アグロフォレストリーによるコミュニティ開発事業	(特活) ICA 文化事業協会	開発協力	8,919,461
スリランカ	2003 年 5 月 30 日	スリランカ北部バブニア地域巡回診療及び健康増進プロジェクト	(特活) アムダ	開発協力	49,873,722
	2004 年 1 月 13 日	スリランカ北部地雷除去プロジェクト	(特活) 日本紛争 予防センター	対人地雷	91,667,018
	2004 年 2 月 20 日	スリランカ北部キリノッチ、東部トリンコマリ地域巡回診療および学校保健プロジェクト	(特活) アムダ	開発協力	41,712,532
ネパール	2003 年 12 月 1 日	ネパールにおける労働組合による労働安全衛生活動	(財) 国際労働財団	開発協力	4,742,985
	2004 年 1 月 9 日	アルノダエ図書館建設プロジェクト	(特活) アイウエ オサークル	開発協力	6,576,410
	2004 年 3 月 5 日	チャング・ナラヤン村における女性の技術向上と幼児教育の開発	(特活) ICA 文化事業協会	開発協力	7,261,806
パキスタン	2003 年 11 月 4 日	パキスタンにおける労働組合による労働安全衛生活動	(財) 国際労働財団	開発協力	4,011,726
バングラデシュ	2004 年 3 月 10 日	バングラデシュにおける労働組合による労働安全衛生 (POSITIVE) 活動	(財) 国際労働財団	開発協力	7,959,080
中東地域					143,692,267
アフガニスタン	2003 年 6 月 9 日	パルフ州アハマドバード村診療所支援事業	(特活) 日本医療 救援機構	開発協力	16,812,066
	2003 年 7 月 2 日	サリプル県水供給施設建設事業	(特活) ピース ウィンズ・ジャパン	開発協力	44,100,475
	2003 年 8 月 18 日	カブール州第 6 区における女性自立支援事業	(特活) ジェン	開発協力	17,779,759
	2003 年 11 月 10 日	ホカム・イ・シャヒード校学校修復事業	(特活) ジェン	開発協力	9,409,115
イラン	2003 年 5 月	マシャッド市貧困地区住民及	(社) 日本国際民	開発協力	20,000,000

	21 日	びアフガン難民に対するコンピュータ技能訓練事業	間協力会		
イラク	2004 年 2 月 17 日	サマーワ母子病院に対する医療機材の緊急支援事業	(特活) 日本・イラク医学協会	開発協力	35,590,852
アフリカ地域					54,673,223
エリトリア	2003 年 5 月 28 日	ガシュ・バルカ地域における女性世帯主への社会的・経済的自立支援事業	(特活) ジェン	開発協力	9,729,822
ブルキナファソ	2003 年 6 月 10 日	ブルキナファソ・リサイクル物資供与計画	(特活) 日本ブルキナファソ友好協会	リサイクル	10,000,000
マリ	2003 年 12 月 22 日	サヘル地域住民の教育の普及	(特活) カラ＝西 アフリカ農村自立協会	開発協力	6,045,741
		サヘル地域住民健康改善プロジェクト	(特活) カラ＝西 アフリカ農村自立協会	開発協力	9,230,247
モーリタニア	2004 年 1 月 19 日	モーリタニア砂漠奥地の僻村地への医療・自立支援事業	(特活) SAVE AFRICA	開発協力	9,977,940
	2003 年 10 月 23 日	サハラ砂漠僻地農村への緊急無線連絡網建設計画	(特活) 国際アマチュア無線ボランティアズ	開発協力	9,689,473
ヨーロッパ地域					84,816,284
セルビア・モンテネグロ	2003 年 9 月 1 日	コソヴォ・パンデリ小学校修復	(特活) 日本救済行動センター	開発協力	8,807,790
タジキスタン	2003 年 8 月 30 日	ダルバン郡ヘルスセンター建物再建支援	(特活) 難民を助ける会	開発協力	6,788,202
		タジキスタン障害者連盟ガーム郡支部への農機具支援	(特活) 難民を助ける会	開発協力	6,410,246
ボスニア・ヘルツェゴビナ	2003 年 7 月 8 日	ボスニア西部における牧羊振興事業計画	(特活) ジェン	開発協力	8,111,376
		ボスニア西部における酪農振興事業計画	(特活) ジェン	開発協力	7,246,863
		東部ボスニアにおける経済的自立支援事業	(特活) ジェン	開発協力	9,241,011
		ボスニアにおける帰還民に対する生活改善支援計画	(特活) ジェン	開発協力	8,527,311
	2003 年 8 月 21 日	東部ボスニアにおける家畜小屋建築計画	(特活) ジェン	開発協力	9,173,268
	2003 年 9 月 2 日	リサイクル活動を通じたサラエボ経済社会開発パイロット事業	(特活) ワールド・ビジョン・ジャパン	開発協力	20,510,217
大洋州地域					13,321,546
パプアニューギニア	2003 年 1 月 23 日	地域開発研修施設拡充計画・	(財) オイスカ	開発協力	9,566,264
フィジー	2004 年 3 月 10 日	ナンドロガ・ナボサ県におけるゴミ・緑化活動啓蒙計画	(財) オイスカ	開発協力	3,755,282
計 27 ヶ国／56 件／34 団体					¥757,699,019

(出所)：外務省ホームページより作成。

「日本 NGO 支援無償資金協力改善のための11の提案」フォローアップ

NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会 NGO側事務局

(2004 年 7 月 2 日作成)

NGO 側からの提案事項	外務省側の回答状況（委員会、勉強会）
提案 1. ソフト要素の重視 建物や機材供与などのハード支援に偏重した現在の姿勢から、トレーニングやモニタリングに関わる能力強化を中心としたソフト重視に転換する。	・無償資金協力＝贈与（Grant）のため、「ハード中心」という原則は動かし難いが、運用ベースでソフト面をより拡充できる可能性はある。 ・30%を超えたものについて支援しないのではなく、ソフト支援が 30%を超えるものについてはより慎重に審査をしたい。
現状：原則からの変更は困難だが運用で対応し、ソフト支援 30%超の案件は慎重に審査する。	
提案 2. 複数年度支援も可能に 3～5 年に渡るプロジェクトサイクルを基本とした複数年度の支援を可能にする。契約は単年度でよいが、複数年度の支援のコミットメントを行う。逆にプロジェクト実施期間、目標・成果の達成度を含むモニタリング・評価方法の記述を義務付け、妥当性を審査する。仮に採択時の複数年支援が現状では困難だとしても、1 年目の成果が出ている場合には2 年度以降も積極的に採択するようにする。現在の、「同一地域、同一内容のプロジェクト支援は不可能」という姿勢を改める。	・予算の単年度主義という原則が憲法の第 86 条で決められており、それは ODA だけではなく、ほかの全予算に適用。ただ、その中で、できる限り使いやすいような形で、複数年度にわたる支援ができないかということで、1 年度で独立した案件を完結し、その上で、更に必要な場合には検討をしていくということで工夫はしている。 ・同一年度内の異なる時期に複数案件を申請した場合、未終了案件の実績評価は、過去に実績がない場合は、原則、実施中の終了評価の結果で見極める。ただし実施中の案件の中間報告等によって、内容が良ければ続けていけるだろうと判断する可能性はある。（04.02.16.勉強会） ・現在実施している事業の終了以前に、並行的に次年度の申請をする場合、15 年度の中間報告が出てきた時点で判断して内容が良いということならば、並行した審査を

	することを検討したい。(04.02.16.勉強会)
現状：複数年事業には、運用面に対応。並行的な次年度申請については中間報告などでの審査も可能。	
提案3. パートナーシップ型を認める ローカル NGO への単なる資金提供という所謂「丸投げ型」と、プロジェクトサイクル全体に関わりつつローカル NGO を重視した「パートナー型」支援とを峻別し、後者に関しては積極的に支援する。	・セクター連携支援において、現地NGOをパートナーシップに含めるよう検討する。 (04.02.16.勉強会) ●「NGO パートナーシップ事業支援」により、途上国の NGO とのコンソーシアム事業も可能 (H16.実施要項 P.13)
●現状：主契約者を日本の NGO とする等の条件のもとでパートナーシップ事業化	
提案4. 現地職員の継続性を保証 質の高いプロジェクトを実施するためには、経験があり、プロジェクトの背景を知っているローカルスタッフの存在は欠かせない。現場で長年働いているローカルスタッフを重視すべきであり、彼ら/彼女らを排除して新規雇用を条件とする現行のガイドラインは全く理解できない。新規雇用のローカルスタッフしか認めない現在のガイドラインは、即刻改善すべきである。当該事業に従事していることをチェックするためには、TORを明記した雇用契約書の提出を求めればよい。同じく、事務所も新規開設でないと認めない点も、改善を要求する。	・基本的に支援無償の考え方は、あくまでも一般無償の中のスキームで、プロジェクトに対する支援である。つまり、そのプロジェクトをやることによって生じたコストに対して支援をしていくというのが基本的な考え方。よって、現地における人員の雇用についても、基本的にこのプロジェクトをやることによって新たに人を雇わなければいけないということになった場合、その部分について支援するという方針である。 ●当該プロジェクト実施に直接関わる申請 NGO の現地常設事務所の現地スタッフの人件費(計2名を限度)及び同プロジェクトを実施するための人員の新規雇上げ費を支援対象化 (H16.実施要項 P.4)
●現状：業務日誌に基づく時間計算・NGO の給与体系に基づく基本給で支援対象化	
提案5. 見積書提出義務の柔軟な運用 資機材購入時における三者見積もりは、競争によって適正価格による購入を図るという意味で原則として必要であるが、プロジェクト現場が遠隔地である場合など途上国の現状を考えると困難な場合がある。そのために、三者見積もりを原則としつつ、理由が明白な場合には一者、あるいは二者の見積もりで可と	・現地の事情で見積もりを取ることが難しいことが証明できれば、三者見積もりは求めている。その場合の価格の妥当性は外部機関の判断に委ねられる。(04.02.16.勉強会) ●資機材・設備調達・施設建設・サービス等の三者見積もりに関し、右を必要とする金額を3万円以上とする (H16.実施要項

するよう、柔軟な運用を望む。また、一定額以下の購入には三者見積もりは不要とすべきである。	P.8)
●現状：現地の事情により困難な場合・3万円以下の場合には、三者見積もりは求めず	
提案6. タイムシート制度の改善 本部スタッフの業務日誌提出は、それ自体が煩雑であるとともに、1日8時間という定時の労働時間以外を対象としないとか、手当や賞与は対象外であるとか、算定基準にも問題がある。業務を簡素化するために、最初に業務分担比率を申請してその割合で本部スタッフ人件費を支出するように変更する。	・マキシマムとして、1日の中で8時間までは人件費を認めましょうということで付けており、労働基準法との関係で見ても妥当なラインかと思う。 ・タイムシートの簡易化に関しては3年間はやってみる。代替案はあるか。(対外説明に耐える代替案必要) (04.02.16.勉強会)
・現状：3年間は試行するが、代替案があれば検討する。	
提案7. 人件費の標準単価制度の導入 現在のスキームにおける人件費は、実際にNGOが支払った給与額に基づいて支給されている。組織力があるNGOとそうでないNGOとでは、給与水準に大きな差があり、そのため同じ水準の仕事をしていてもNGOによって支払われる金額が異なり、NGO間の格差がますます開くことになる。人件費に関して、適正な算出根拠に基づいて、標準的な単価を設定し、同じレベルの業務に対しては一律に支給する制度を要望する。	・プロジェクトに要したコストを負担するという趣旨で、現地の個別当該NGO団体の給与体系を使っている。ただ、これを標準化した場合に、ではどこに合わせるのかなど、いろいろ難しい問題があるので、ここについては可能かどうかも含めて、まず部内で考えていきたい。
現状：各種の問題があるので、可能かどうか検討したい。	
提案8. 本部への銀行口座送金も認める NGOによっては、現地に事務所を持たずに、年に数回スタッフを現地に派遣してプロジェクトを運営するタイプのものもある。その場合、現地に銀行口座を開設することができず、それが障害となっている場合がある。また、全てを現地振込とすると、日本国内での支出分を逆送金しなければならないが、国によってはそれができない。そこで、本部の銀行口座への送金を可能とするように変更する。	・現地にやむを得ない事情で職員を派遣できないという場合には本部、東京での契約も認めている。 ・あくまでも原則は現地で契約を結ぶということは確認したい。つまり、プロジェクトをやるのは現地なので、現地のプロジェクトを十分にフォローしていける大使館が当事者として契約を結ぶことが望ましいという発想で原則現地契約ということになっている。 ・日本での調達率が50%以上ある場合には、

	日本での契約を認め、本邦口座に入金している。(04.02.16.勉強会)
現状：本邦調達が 50%以上の場合には対応している。	
提案 9. 審査者の意思統一 個別 NGO との交渉過程で明らかになった問題点に対して、民間援助支援室としての統一した見解を作成し、全 NGO に提示することによって、担当者によって解釈が異なるという事態を招かないようにするよう要望する。また、作成された統一見解は、直ちに在外公館にも伝えて、現場によって対応が異なるような事態が生じないように要望する。	・室内では、地域担当者が一義的に対応している。実施要領の範囲を超えるようなイレギュラーな内容については、対応振りが必ずしも関係者全員に共有されていないのは事実。今後は、そうした個別の対応を室全体の共有財産へと結びつけ、統一見解は在外公館やNGOにも出していきたい。 ・在外公館での意思統一については、担当者会議での情報の共有、ODA 大使館等を通じての情報の共有につとめたい。一方で、NGO の現地駐在員と NGO 本部の連絡を密にして欲しい。 ・本省と在外公館との認識の違いを無くすよう、近くアジア地域の担当者を集めて、意思統一の会議を開く。(04.02.16.勉強会)
現状：担当者会議などにより共有・意思統一に努める。	
提案 10. 審査の迅速化 NGO 支援無償の受付が始まってから、多くの NGO が困惑していることは、決定までの時間が非常にかかることである。既に申請後 1 年が経過してもまだ目処が立っていない案件すらある。財政基盤の弱い日本の多くの NGO にとって、決定が遅れる事は、苦しい財政の中で自己資金で賄うか、プロジェクトの開始を遅らせたり、必要な活動の一部を延期したり、開始までスタッフを待機させたりしなければならない、現地との信頼関係にも大きな影響を及ぼす。初年度で NGO・外務省ともに不慣れな点もあるが、審査手続きの迅速化を強く要望する。	・「受領通知」については、申請書を受領した後、不備な点を補正し、すべてが整った段階で当該団体に通報することとしたい。申請案件の内容や申請額の規模により審査期間は異なるが、長くなる場合は進捗状況等を出来る限り連絡するようにする。また（不採択の）理由については、口答で説明を行っている。(03.11.21. 連携推進委員会) ・不採択が明らかな場合にはより早めの回答をしたいが、補正により検討できる案件が多いので、判断が困難。外務省側の基本姿勢は、「可能な範囲で補正により案件化する」にある。(04.02.16.勉強会) ・審査期間の平均は、最短で 1 ヶ月、長いもので半年～1 年程度要したものもある。通常補正終了後の審査期間は 2～3 ヶ月程

	度である。(04.02.16.勉強会) ・ 1000 万円以上の案件でも財務省協議自体はそれほど時間を要しない。申請団体の経験・実績によるところが大きい。ただし、過去に 1000 万円以上の実績がなくとも、それ以下の複数案件の実績があればそれも考慮する。また、金額ありきではなく、案件の内容をまずは考慮してほしい。 (04.02.16.勉強会) ・ 適正さ確保のために、団体の資格要件（組織監査の有無）、法人格のほか実績面（JICA 草の根技協の供与規準を参考）、中間および最終報告（大使館を通じた現地調査の活用）を重視する。(04.02.16.勉強会) ● 申請書の到着後、必要な補正を経た上で、約 2～3 ヶ月程度を目処として審査手続きの完了を目指す（H16.実施要項 P.13）
● 現状：補正終了から 2～3 ヶ月を目処として目指す事を実施要領に明記。可能な限り補正により案件化したいので、NGO 側の書類作成にも努力を期待する。	
提案 11. 制度設計プロセスにおける NGO の参加 従来、事前のヒアリングもなしにスキームの詳細が決まり、決定後に NGO に提示されることが一般的であったが、実際の利用者である NGO の多様な意見が反映されるように、制度設計のプロセスに積極的に NGO の参加を促すべきである。	・ 実際の制度の案文を作成するのは行政官の職務。その内容を良くするために NGO 側の意見を十分ヒアリングする機会を設け、理解を深めていくのは重要であるが、そこまでが限度ではないか。 ・ 単に意見を拝聴するということではなくて、外務省の考え方をぶつけて、それらに対する意見を賜って、そこで触発された形で具体的な成果、またはスキームの改善等に努めていきたい。 ・ 外務省の担当レベルがもっと実質的な協議に参加し、忌憚のない意見交換を通じてブレイン・ストームしていくことも、実質的には NGO が制度設計に参加している形になるのではないか。 ・ 学習会のなかでやっていければと思う。 (03.11.21.連携推進委員会)

	→2004 年 2 月 16 日に意見交換のための勉強会を実施。
現状：2003 年 8 月に非公式勉強会、2004 年 2 月に次年度実施要領改訂のための勉強会を開催した。	

参考文献リスト

- アイ・シー・ネット（株） 『主要援助国および主要国際援助機関におけるNGO支援策の比較調査 調査報告書』 外務省委託 2004年3月
- 今田克司（CSO ネットワーク）「NGOの今日的課題はなにか」今田克司・原田勝広 編著 『連続講座 国際協力NGO』日本評論社 2004年
- オーバーシーズ・プロジェクト・マネージメント・コンサルタンツ（株）、（特活）国際協力NGOセンター、（特活）名古屋NGOセンター『外務省・NGO共同評価（NGO事業補助金制度）報告書』外務省委託 2002年10月
- 外務省経済協力局編 『我が国の政府開発援助 上巻』国際協力推進協会 1990年10月
- 外務省編 『政府開発（ODA）白書 2001年版』2002年5月
- 外務省編 『政府開発（ODA）白書 2002年版 ～「戦略」と「改革」を求めて～』2003年4月
- 外務省編 『政府開発（ODA）白書 2003年版 ～新ODA大綱の目指すもの～』2004年4月
- 外務省編 『政府開発（ODA）白書 2004年版 ～日本のODA50年の成果と歩み～』2004年11月
- 外務省経済協力局民間援助支援室 『ODAとNGO - 政府とNGO間の連携・支援・対話』2005年12月
- 片山信彦（ワールド・ビジョン・ジャパン）「NGOの基盤強化」今田克司・原田勝広編著『連続講座 国際協力NGO』日本評論社 2004年
- 日下基（国際開発ジャーナル）「活動資金からみた日本のNGO像 - 資金規模では二極化傾向も」国際開発ジャーナル 2004年11月
- グローバル リンク マネージメント（株）「草の根無償資金協力評価調査 評価調査報告書」外務省委託 2001年10月
- 黒田かおり（CSO ネットワーク）「国際開発NGOの役割」今田克司・原田勝広編著 『連続講座 国際協力NGO』日本評論社 2004年
- 独立行政法人経済産業研究所 『アンケート調査結果のポイント - 2003年NPO法人活動実

態調査の概要』 2003 年 9 月

国際開発高等教育機構 『報告書：開発・援助に関する途上国 NGO 等の意識調査 - 草の根
無償資金協力被供与団体関係者の視点から - 』 1996 年 3 月

国際開発高等教育機構 『平成 15 年度開発エコノミスト養成国際パネル事業： FASID ブ
ラウン・バッグ・ランチ実施報告書』 2004 年 3 月

国際協力機構 企画・調整部『平成 16 年度 特定テーマ評価「NGO 連携事業」－NGO・
JICA 評価小委員会による草の根型案件の評価手法のあり方について(NGO 連携事業を
事例として)』 2004 年 10 月

国際協力事業団 国際協力総合研修所 『地域に根ざした NGO との連携のために - 草の根
NGO と JICA とのパートナーシップ構築 - 』 2003 年 3 月

原田勝広『「こころざし」は国境を越えて』日本経済新聞社 2001 年 5 月

山岡義典 『NPO 基礎講座 3 ～現場から見たマネジメント』 ぎょうせい 1999 年 9 月

NGO 活動推進センター (JANIC) 『国際協力 NGO ダイレクトリー2004：国際協力に携わ
る日本の市民組織要覧』 NGO 活動推進センター 2004 年 3 月

NGO 活動推進センター (JANIC) 『NGO ってなんだ！？』 NGO 活動推進センター 1997

21 世紀政策研究所 『NGO と ODA の連携強化のあり方 - ODA 改革の突破口として』
2000 年 3 月

Andrew S. Natsios, Roger P. Winter, Judith W. Gilmore “2005 VolAg report of voluntary
agencies engaged in overseas relief and development registered with the U.S.
Agency for International Development” USAID

USAID Bureau for Democracy, Conflict and Humanitarian Assistance Office of Private
and Voluntary Cooperation “A Strategic Framework for the Office of Private and
Voluntary Cooperation FY 2003-07” December 2002

USAID Bureau for Democracy, Conflict and Humanitarian Assistance Office of Private
and Voluntary Cooperation-American Schools and Hospitals Abroad “2005 Portfolio
Fiscal Year 2004”

ホームページ

外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/>

児玉光也（HANDS）「保健分野における日本のNGOの活動」、『課題別基礎情報 NGO』

FASIDホームページ掲載

(<http://dakis.fasid.or.jp/report/information/healthngo.html>)

FASIDホームページ <http://dakis.fasid.or.jp/>

日本郵政公社ホームページ <http://www.yu-cho.japanpost.jp/volunteer-post/index.htm>

JICAホームページ <http://www.jica.go.jp/partner/what.html>